

令和5年度 個人積算線量測定  
子どもたち（小中学生）の  
測定結果をお知らせします



2024年1月19日  
郡山市学校教育部学校管理課  
課長 二瓶 元嘉  
TEL：924-3428

SDGs ターゲット 3.4 「全ての人の健康的な生活を確保する」

子どもたちが外部から受ける放射線量について、令和5年度の測定結果は次のとおりです。

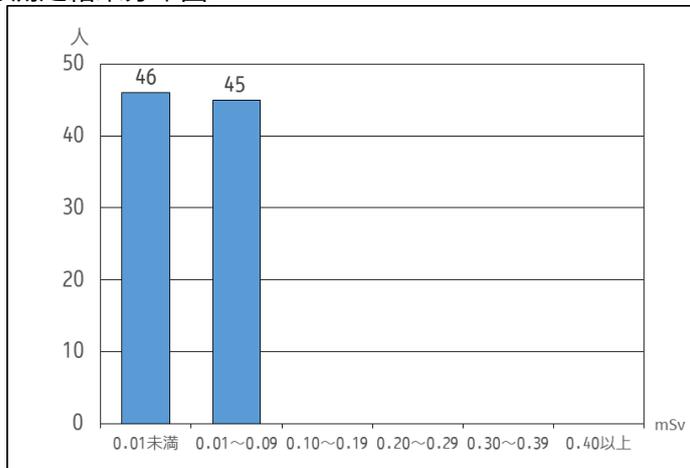
なお、測定結果について、福島県「放射線と健康」アドバイザリーグループの方々から測定者全員が「健康に影響を与えるような数値ではない」とする専門的な見解をいただいております。

- 1 測定概要 (1) 測定者数 91人
- (2) 測定対象期間 令和5年9月1日(金)～令和5年11月9日(木) 70日間
- (3) その他 測定結果の数値は、測定対象期間の自然放射線被ばく相当量 0.12mSvを除いた数値

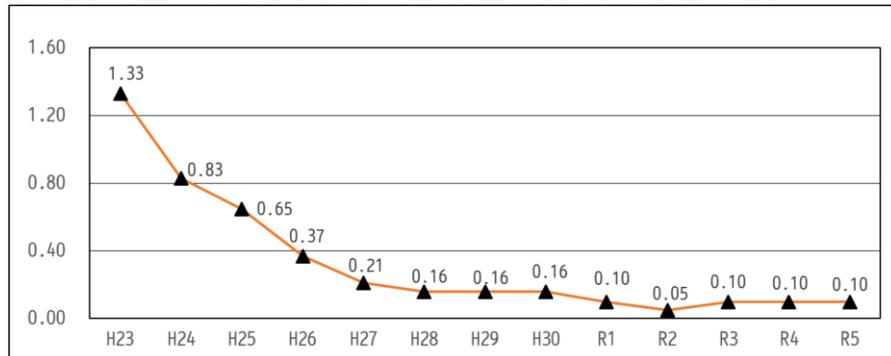
2 測定結果

対象	人数	平均値	最高値	最低値	年間推計値
小・中学生	91人	0.02 mSv	0.07 mSv	0.01 mSv 未満	0.10 mSv

○測定結果分布図



○個人積算線量の平均値を年間の積算線量に換算した場合の推移



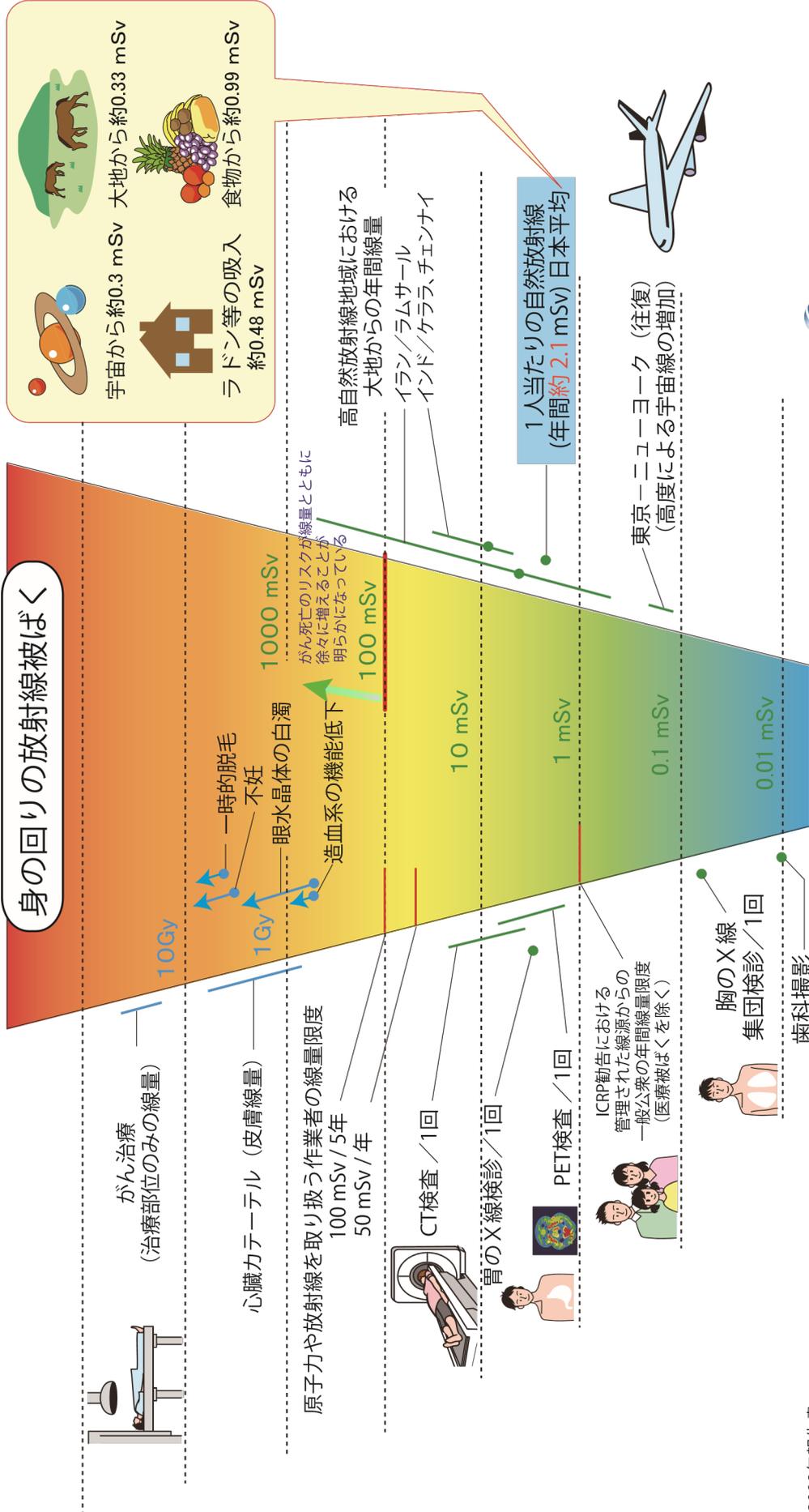
2024（令和6）年に郡山市は市制施行100周年を迎えます！！

ひらけ 未来へ こおりやま

# 放射線被ばくの早見図

## 人工放射線

## 自然放射線



**【線量の単位】**  
各臓器・組織における吸収線量: Gy (グレイ)  
放射線から臓器・組織の各部位において単位重量あたりにどれくらいのエネルギーを受けたのかを表す物理的用量。  
実効線量: mSv (ミリシーベルト)  
臓器・組織の各部位で受けた線量を、がんや遺伝性影響の感受性について重み付けをして全身で足し合わせた量で、放射線防護に用いる線量。  
各部位に均等に、ガンマ線 1 Gy の吸収線量を全身に受けた場合、実効線量で 1000 mSv に相当する。

- UNSCEAR 2008年報告書
- ICRP 2007年勧告
- 日本放射線技術師会医療被ばくガイドライン
- 新版 生活環境放射線 (国民線量の算定) などにより、放医研が作成 (2013年5月)

**【ご注意】**

- 1) 数値は有効数字などを考慮した概数です。
- 2) 目盛 (点線) は対数表示になっていません。目盛がひとつ上がる度に10倍となります。
- 3) この図は、引用している情報が更新された場合変更される場合があります。